

阪南 2 区南側人工干潟においてアマモ移植を行いました

- 日 時 令和3年4月29日（木・祝）13:50～15:30
- 場 所 阪南2区（ちきりアイランド）南側人工干潟（大阪府岸和田市）
- 主 催 CIFER・コア、大阪海さくら
- 協 力 （公財）大阪府都市整備推進センター
【アマモ苗提供】
株総合水研究所、鴻池運輸(株)、センコー(株)、あすなろ学童クラブ、
中村様ご夫妻（一般参加）
- 参加者数 16名（CIFER・コア6名、大阪海さくら4名、鴻池運輸(株)2名、センコー(株)1名、
東洋建設(株)1名、一般2名）



CIFER・コアと大阪海さくらが共同開催を予定していたイベント「ちきりアイランド探訪ツアー」には、一般の方々70名ほどのお申し込みをいただきましたが、大阪府に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたことを受け、当初予定していた講師を招いての「海の生き物さがし」については取り止めとし、関係するスタッフでアマモの移植とボードウォーク周辺の清掃活動を行うこととなりました。

当日はあいにくの悪天候となりましたが、人の手で育てたアマモ苗の成長が移植の限界にきていることや、潮位が1年で最も下がる時期であることから、この日の決行となりました。アマモ苗は大阪海さくら（鴻池運輸(株)、センコー(株)、あすなろ学童クラブの苗を含む）と株総合水研究所、また、毎年、多くのアマモ苗を育てておられる一般参加の中村さんご夫妻にご用意をいただきました。

アマモ苗は土の入った生分解性の袋に数本ずつ植わっており、袋のまま海底に移植できるようになっています。海さくら代表の那須睦美さんが、持ち込まれた苗から“健康”で移植に適した苗を選別した40袋と中村さんご夫妻が水槽で育てたアマモ苗を使用しました。

移植場所は底質や水位を考慮し、中仕切り堤近くの砂地になりました。雨のために水位が20cm程度にもかかわらず海底が全く見えない状況でしたが、大阪海さくらスタッフの方々や中村さんご夫妻が手慣れた様子で作業を進め、苗の移植そのものは10数分で終わりました。

最後に、東洋建設(株)の藤原敏晴さん（CIFER Active サポーター）から「大阪海さくらの夢は大阪湾の北側にまでアマモ場を作ることだ。大阪湾で自然にアマモが生育している北限は二色浜のあたりだが、この阪南2区にアマモが根付くと北へ生育域を広げていくための大事な一歩となる」というコメントをいただいで締めくくりました。

▼ アクセスボードウォーク



▼ 干潟に自生するハマヒルガオ



▼ 干潮の干潟



▼ アマモ苗の選別



▼ 移植の様子（水が濁り手元が見えない）



▼ 健康なアマモ苗が選ばれた



◀▼ 帰り際にボードウォーク周辺の清掃を行い、ゴミ袋 12 個のプラスチックゴミが集まった

